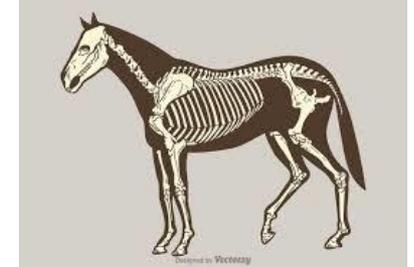


サイドラインからのウォッチング



学校法人中部大学 理事・副総長
家 泰弘



自己紹介 どの馬の骨？

元 物性物理の実験屋(東京大学物性研究所)  **理学系**
研究に関わるメンタリティとしては文学部に近い。
知的興味の向くままに。
「それ何の役に立つの？」という質問には困惑する。

物理研究の現役を退いてからは、「文転」を自認。
科学史、科学哲学もどきを勉強。
アマチュアなので論文執筆のプレッシャーとは無縁。

前 日本学術振興会 理事(2015.10 - 2021.09)
 学術行政(科研費、特別研究員、WPI、FoS、
先導人社事業...)

自然科学 vs 人文学・社会科学

哲学、史学、文学

社会学、地域研究

法学、経済学、経営学

学術文化、社会の品格

心理学、教育学

課題への取り組み

真理の探究

社会との関わり

価値の創造・実現

数学、天文学
物理学、生物学

化学、物質科学
地球科学、環境学
情報学、生活科学

工学、農学
医学、歯学、薬学

人文・社会系の研究活動（自然科学系との比較において）

サイドラインからのウォッチング

学術団体が細分化される傾向  [次ページの資料](#)



日本学術会議

【第一部】人文・社会科学

言語・文学	241
哲学	190
心理学・教育学	433
社会学	317
史学	250
地域研究	275
法学	154
政治学	113
経済学	201
経営学	198

2372

【第二部】生命科学

基礎生物学	150
統合生物学	94
農学	265
食料科学	101
基礎医学	221
臨床医学	158
健康・生活科学	313
歯学	126
薬学	124

1552

【第三部】理学・工学

環境学	217
数理科学	65
物理学	76
地球惑星科学	93
情報学	153
化学	129
総合工学	146
機械工学	70
電気電子工学	70
土木工学・建築学	114
材料工学	102

1235

日本学術会議 協力学術研究団体* 1781

* 構成員(個人会員)100人以上。個人会員の半数以上が研究者。

学術研究(論文等)を掲載する機関誌を年1回継続して発行

一つの学術研究団体が複数の区分(学術研究領域)に関係している場合が多い。

人文・社会系は学会・研究会等の学術団体の数が多い。

小規模な学術団体もカウントすれば、この傾向はさらに顕著?

自然科学 vs 人文学・社会科学

哲学、史学、文学

社会学、地域研究

法学、経済学、経営学

学術文化、社会の品格

心理学、教育学

課題への取り組み

真理の探究

社会との関わり

価値の創造・実現

数学、天文学
物理学、生物学

化学、物質科学
地球科学、環境学
情報学、生活科学

工学、農学
医学、歯学、薬学

人文・社会系の研究活動（自然科学系との比較において）

サイドラインからのウォッチング

学術団体が細分化される傾向

個人単位の研究。研究組織を構成すること(必要性)は少ない。

論文誌以外に、紀要や単行本での研究発表が多い。

日本語での成果発表の比重が相対的に大きい

先導的人文学・社会科学研究推進事業

学術知共創プログラム

「大きなテーマ」を設定・提示して、研究提案を募る。

⇒ 科研費によるボトムアップ研究の助成を主なミッションとしてきたJSPSとしては、かなり異例の誘導的事業。

人文・社会系の研究者が主導し、多様なバックグラウンドの研究者、ステークホルダーの積極的な参画を得て研究組織を構成。



決して簡単なことではない。研究代表者は苦勞するはず。最初からあまり苦勞しないような人たちを単に集めた組織ではこの事業の意味は薄い。

あくまでも私見です

人文・社会系においても、グループ研究の提案が平場の科研費で活発に行われるようになって、誘導的事業が不要になることが望ましい。